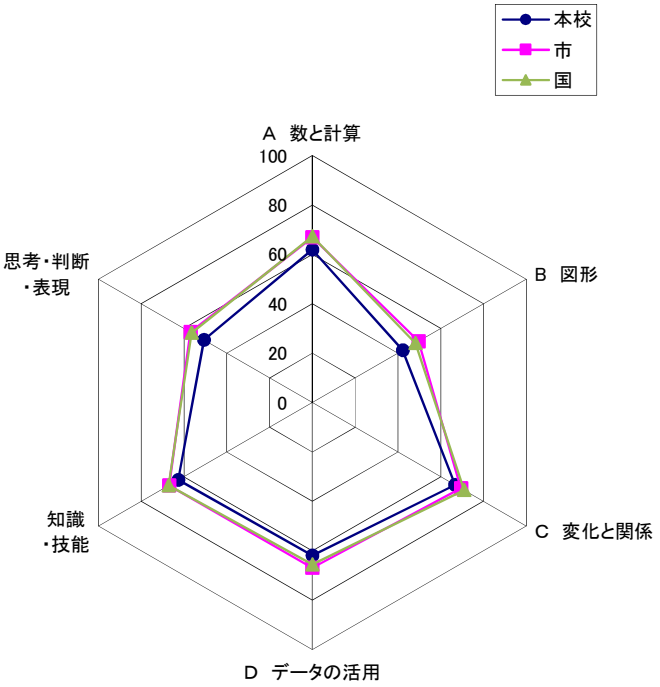
宇都宮市立桜小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	61.9	66.9	67.3
	B　図形	42.3	49.6	48.2
	C　測定			
	C　変化と関係	66.7	69.4	70.9
	D　データの活用	61.9	66.9	65.5
観点	知識・技能	62.7	67.0	67.2
	思考・判断・表現	50.7	57.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	○示された日常生活の場面を解釈し，求め方と答えを式や言葉を用いて記述し，その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題の平均正答率は，3ポイント程度県や国を上回った。 ●加法と乗法の混合した計算式についてや，（2位数）÷（1位数）の筆算について，図を基に，各段階の商の意味を考える問題に課題が見られる。	・基礎的な計算については，スマイルネクストドリルを活用しながら学校や家庭でのドリル学習に繰り返し取り組むようにし，確実に身に付けられるようにする。 ・見直しや確かめ算に取り組む機会を繰り返し設定し，定着を図る。 ・朝の学習の時間や学習がんばり週間に，小テストやステップアップテストを実施し，計算技能の定着を確認しながら指導を行う。
B　図形	○高さが等しい三角形について，底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し，その理由を言葉や数を用いて記述する問題では，全国の正答率を6ポイント上回り，県の正答率と同等であった。 ●台形・正方形・正三角形の意味や性質についての理解に課題が見られる。	・ICTを活用し，図形について既習事項を確認する機会を設けるとともに，図形の性質や構成の仕方について視覚的に捉えさせ，理解を深めることができるよう指導する。 ・具体物を用いたり，既習事項を生かしたりしながら，問題を自力で解決できるように，段階的に指導を進めていく。
C　変化と関係	○伴って変わる二つの数量の関係が，比例の関係ではないことを説明するために，表の中の適切な数の組を用いる問題については，県の正答率を1ポイント上回り，全国の正答率と同等であった。 ●伴って変わる二つの数量について，表から変化の特徴を読み取り，表の中の知りたい数を求めたり，比例の関係にあることを用いて，知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述したりすることに課題が見られる。	・割合や比例に関する学習課題に繰り返し取り組ませるとともに，概念について視覚的に捉えさせたり，日常における具体的な場面を例示したりして，実感的に捉えられるよう指導する。 ・スマイルネクストドリルを活用し，児童の習熟度に合わせて割合や比例に関する問題に取り組むようにしていく。
D　データの活用	○二次元の表から，条件に合う数を読み取る問題の平均正答率は，2ポイント程度県や国を上回った。 ●分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察し記述する問題の平均正答率は，15ポイント程度県や国を下回った。	・円グラフや表の基本的な読み取りについては，算数だけでなく社会や理科など他教科においてもグラフや表に触れる機会を意図的に設定する。また，数値を読み取ったり，変化の傾向を捉えたりしながら学習課題に取り組ませて，グラフを読み取りデータを活用する力を高めていく。